

Method of birefringence measurement by phase measurement of backscattered light using coherent heterodyne detection

明治大学 総合数理学部 (B)O武井 菜々子, 笠 史郎

School of Interdisciplinary Mathematical Sciences, Meiji University, Nanako Takei, Shiro Ryu E-mail:ev61096@meiji.ac.jp

1. まえがき

コヒーレントへテロダイン検波技術は、光の位相情報を直接観測できるため、さまざまな光学測定技術に適用できる。光ファイバ内の後方散乱光は、ファイバ内部の電界分布情報を反映している [1]。我々は、本技術を利用して光ファイバ内の後方散乱光を観測し、位相特性解析を行っている。また、光ファイバの微小な歪みによって生じる複屈折[2]は、後方散乱光の位相変化をもたらす。そこでコヒーレント技術を用いて複屈折の値を測定するための実験系を構築し、測定することを目指した。

2. 理論

後方散乱光の電界 E_s は、 β を伝搬定数、 v_g をファイバ内の群速度、 l_p をファイバに入力するパルス幅、 ω を光の角周波数とすると、光ファイバ内の長手方向における長さ $z=z_s$ において、 $E_s=\sin\{(\beta v_g-\omega)t-\frac{\beta l_p}{2}\}\cdot\sin\frac{\beta l_p}{2}$ と表される。従って瞬時位相は $(\beta v_g-\omega)t-\frac{\beta l_p}{2}$ となる。ファイバ内の位相速度は $v_p=\frac{\omega}{\beta}$ 、 $v_g=v_p$ であることから、 $(\beta v_g-\omega)t-\frac{\beta l_p}{2}\cong\beta v_pt-\omega t-\frac{\beta l_p}{2}=-\frac{\beta l_p}{2}$ となる。このことから、後方散乱光の瞬時位相は、ファイバの長手方向に対して平坦になるはずである。実際には長手方向に対して位相が変動するが、これは複屈折($\Delta\beta$)の影響であると考えられる。

3. 実験と考察

Fig. 1 は後方散乱光を測定するための実 験系である。本実験では、パルス波形を用 いた光 FSK 変調が行われ、OTDR 用の光パル スが生成される。光送信器からの光は光 SSB 変調器に入る。光 SSB 変調器は、電圧 制御発振器(VCO)によって駆動される。光 SSB 変調器の出力光信号は光増幅器によっ て増幅し、長さ80kmのシングルモードフ ァイバに入射した。測定された後方散乱光 は光90度ハイブリッド+バランスト受信器によ って検出した。受信した I,Q 信号はサンプリン グレート 1.25GS/s、サンプル数10⁶のオシロス コープによって標本化した。また、FSK パルス の繰り返し周波数は1kHzとした。FSK変調のパ ルス幅は 20ns で、約 2m の距離分解能に対応す る。Fig. 2 は 4 つのパルス入力時の、光ファイ バの距離に対するx偏波の瞬時位相の変化を表 している。Fig. 2 から、4 つのパルスに対して、 おおよそ位相変化が一致していることが分か る。この結果より複屈折はΔβ=約 0.15rad/m、ビ ート長は L_B =42m と求められた。

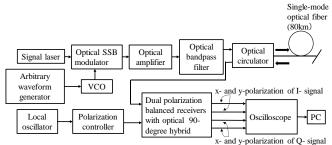


Fig.1 Experimental Setup

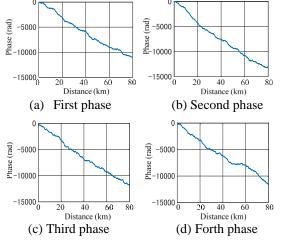


Fig.2 Measured phase of backscattered light

参考文献

[1] E. Brinkmeyer, "Analysis of the backscattering method for single-mode optical fibers," J. Opt. Soc. Am., **70**, pp.1010-1012 (1980).

[2] B. Y. Kim and S. S. Choi, "Analysis and measurement of birefringence in single-mode fibers using the backscattering method," Optics Letters, 6, pp. 578-580 (1981).